

研究代表者 所属：千葉大学 氏名：内山 哲彦

## I 研究課題

「企業価値創造に向けてのインタンジブルズの複合的活用」

## II 研究目的

第 1 に、管理会計の視点からインタンジブルズ・マネジメントの意義を再検討することである。本研究グループでは、人的資産、組織資産、情報資産、顧客資産、ブランド、企業の評判（コーポレート・レピュテーション）といったインタンジブルズを構成する要素について検討を加えることによって、インタンジブルズのマネジメントの意義について明確化する。第 2 に、インタンジブルズのマネジメントにおける、インタンジブルズの活用の側面に焦点を当てる。インタンジブルズの効果的な活用のためには、個別の構成要素の活用だけでは不十分であり、複数のインタンジブルズの統合的なマネジメントも視野に入れた枠組みを考える必要がある。

本研究グループの最終的な研究目的は、統一的な視点からインタンジブルズとして認識された複数のインタンジブルズを複合的に活用するための統合的マネジメントの枠組みを提示することである。

## III 研究計画

第 1 年度においては、第 1 の目的について理論研究をベースに考察を行う。第 2 年度においては、インタンジブルズとしての各種の無形の資産の活用方法について、理論的および実証的に研究を実施する。最終的には、以下の研究成果を意図している。

- ① さまざまなインタンジブルズに共通する、インタンジブルズとしての企業業績・企業価値への貢献性の明確化。
- ② インタンジブルズの構築に加え、インタンジブルズの活用に関するモデルの構築（その際、複数種のインタンジブルズによる複合的貢献を前提とする）。
- ③ 理論的モデルの企業実態による実証。

## IV 共同研究者の氏名と所属

青木章通（専修大学）、岩田弘尚（専修大学）、内山哲彦（千葉大学）、木村麻子（関西大学）、小酒井正和（玉川大学）、細海昌一郎（首都大学東京）＜以上、五十音順＞